

紙は 繰り返し使える 資源です

雑誌と雑がみの分別にご協力ください

生活に欠かせない紙製品。原料は木材からつくられるパルプで、新しいパルプを使うことは、森林を伐採することにつながります。

私たちが日常出すごみにも、原料となる雑誌や雑がみが混ざっていることがあります。きちんと分別し、資源物として出すことで、新しい製品に生まれ変わり、繰り返して使うことができます。

雑がみは再生紙にリサイクルできます

市では、家庭から出るごみを可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、粗大ごみ、資源物の5種類に分けて収集しています。資源物の中の紙類は、新聞、雑誌、雑がみ、段ボール、紙パックなどに分けられています。

新聞や雑誌、段ボールなどとは違って、雑がみにはたくさんの種類があり、資源物かどうか分かりにくい場合もあるため、分別するには手間もかかります。しかし、可燃ごみとして捨てていると、再生紙としてリサイクルできる貴重な資源が、ただのごみになってしまいます。きちんと分別して出せば、家庭から出るごみが減るだけでなく、収集や処理にかかる費用の削減にもつながります。

雑誌と雑がみは分別してください

回収した古紙は、品質や特徴によって、さまざまな再生紙の原料になります。たとえば、古新聞はまた新しい新聞紙に、段ボールも新しい段ボールになります。紙パックなどはトイレットペーパーにリサイクルされます。

雑誌類や種類が多い雑がみは、主にボール紙やトイレットペーパーなどにリサイクルされます。きちんと分けることができれば、その後の作業もスムーズになり、コストやエネルギーを削減することができます。雑誌・書籍・パンフレットなど綴られたものは、まとめて十字に縛ります。雑がみは大きさをそろえてそのまま縛るか、紙袋に入れてばらばらにならないように縛って出すようにしてください。

リサイクルできないものは はずしてから出しましょう

フィルムやプラスチック、金属など、紙以外のものが混ざっていることがあります。耐水加工されたものも、水に溶けないのでリサイクル

資源物として

出せる紙

雑誌 = ノートなど綴じられたもの



書籍やパンフレット・カタログ・案内書・説明書などの小冊子。
ひもなどで十字に縛って出してください。

雑がみ = 「雑誌、新聞、段ボール、飲料用パック」以外の紙



ティッシュの箱、封筒、はがき、カレンダー、菓子箱、ラップの箱、プリント、トイレットペーパーやラップの芯、紙袋、包装紙など。



紙袋に入れてひもで十字に縛るか、紙袋がないときは、紙の大きさをそろえてから十字に縛って出してください。

フィルム、プラスチック、金属など紙以外は取り除いてください

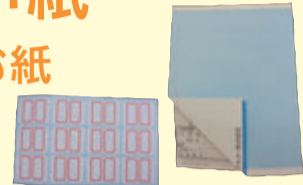
ティッシュ箱の取り出し口・窓枠封筒のプラスチックフィルム、雑誌の表紙に貼られたプラスチックフィルム、ファイルやバインダーの金属・プラスチック、紙や紙箱に貼られた粘着テープなど。

可燃ごみへ

出せない紙

粘着物を含む紙

シール、
圧着ハガキ。



防水・耐水加工された紙

紙コップや紙皿、アイスやヨーグルトのカップ、ビールなどの紙ケース。



におい・汚れのある紙

線香の箱、石鹸の箱や洗剤の箱、食品の残りかすで汚れた紙など。



除去できない
インクや染料などが塗られた紙

アイロンプリント紙、レシート(感熱紙)、宅配伝票(カーボン、ノーカーボン紙)、写真(インクジェット用はがき)、アルミ付き紙パックなど。



可燃ごみへ

詳しくは「家庭ごみの分け方出し方」や市ホームページで確認できます。

できません。これらの異物が混ざっていると、紙にシミができたりして、不良品となり再生紙として使えなくなってしまいます。

古紙は回収してから一度に大量に持ち込まれるため、一つ一つを確認して異物を取り除くことは困難です。雑誌や雑がみを出すときは、これくらいなら大丈夫と思わずに、きちんとはずしてから出すようにしましょう。特に雑誌に付いている、CDやフィルムなどが混ざらないよ

うにすることで、古紙はより利用しやすくなると言われています。

しっかりとした量を確保しながら品質を維持することが、安定した紙のリサイクルを続けていくためには重要です。

お問い合わせはクリーン推進課
☎483-1151(代表)へ

広告

広告